

20 明治9年9月29日 菊池長閑

第九号 九月廿九日

第六号本月三日達し日教七十五日於磯始娘共之事毎々心配心付申越之趣至極尤ニ候察之通今更中々容易ニ習慣脱かたくと申せハ其者

共之越度之様ニ候へ共全くハ家事ニ有餘なきガ其能事を知りつゝも為致兼る也去りとて此儘ニ過れハいつも其通り故ニ時機を見合着手せんと考居候矢向少敷好機等とも可申義出来昨今取懸り居候今一二ヶ月も立候ハ其功驗も見得可申見込通りニ参候ハ小遣帳計ニハ有之間敷其模様ハ追便可申入候「貴様転居一件ニ付云々申遣候ハ最前申入候通強而不案(抹消)心とのミ存而之事トハ無之実ハ英公子なども専ら婦女之為メ学校放逐せられ候など此地計り評判有之御壮年故一時ハさもあるへきやなと存候へ共男女之交振書面ヲ以考れハ必意外国之風を日本之習風ニ押当不案内之推説なり申越之通ニ而ハ相互雜念あるましく大ニ安心せり右之通ニ候間当方之義聊懸念致間敷候」扇其外致着之由安心いたし候只今迄其報知無之故如何と県念致居候郵切手達候よし承知いたし候返々も織物切途中ニ而紛失ハ残念也菊池金吾外国行云々之義早速為知候処呉々も厚礼申述候」去月十五日県社八幡宮祭礼例之出し物五つ其中海老と福祿寿ハ電信線ニ行と伏而通仕県ニ而大坪判然しハ海老ハ一等之由当年ハ附祭り之入費中家已上出金勸業局にて出し物受負したるよし何等之見込か免角請負細工故か近年之不手際也其上十四五日雨天ニ而出し物市中も曳かず十六日曇たれとも雨無之故漸々御祭らしく始而市中も曳夫行統て十七日新嘗会なるニ以之外大風雨終ニ其儘にて取毀し痛入候」当年ハ諸国豊熟にて新米尅駄式円下るへしト之事絹糸真綿当年大当りと之事ニ候」新聞ハ藤村多忙ニ而延引之由己来川上氏ツカガ郵送之事ニ馬場練兵頼談之趣申来候半紙之野引百枚ハ一条ガ送致候趣とも申来候間心得ニ申遣置候」外

加賀野七十番地石澤氏之宅地調出格子ノ直都合次第表門ヲ其方位
ニ□り可申此候節願立中ニ候猶落書次第次便ニ可申入候以上
武夫殿
長閑

尚以先達煙草印紙送候哉覺居不申候間爰ニ三枚送遣し候

(封筒裏)

「亜米利加国ホストン府

ボードウインストリート

二十二番地

菊池 武夫 殿

要書報平安」

(封筒裏)

「日本陸中国盛岡岩手県下

第一大区五小区加賀野

七十六番地

菊池 長閑」